

発注者綱紀保持委員会（第7回定例会議）

開催日及び場所	平成22年3月16日（火）東北地方整備局大会議室		
出席者	委員長	青山 俊行	局長
	副委員長	宮本卓次郎	副局長
	副委員長	関 博之	副局長
	委員	小野寺信一	弁護士
	委員	内田 貴和	公認会計士・税理士
	委員	飛田 善雄	東北学院大学教授
	委員	朝比奈志浩	総務部長
	委員	川嶋 直樹	企画部長
	委員	東 潔	建政部長
	委員	田上 澄雄	河川部長
	委員	三浦 真紀	道路部長
	委員	山本 浩	港湾空港部長
	委員	磯部 正	宮繕部長
	委員	山本 義信	用地部長

定例会議議事概要

意見・質問等	回答
■コンプライアンスマニュアルの改訂結果について	
特段の意見無し	
■平成22年度研修計画等について	
<p>○研修名から判断すると専門的な研修に見えますが、各講義のどこでコンプライアンスの問題をやるのですか。</p> <p>また、コンプライアンスの講義を実施しない研修のすべてを対象として自習時間に取り組むとありますが、どこでどんなことをやっているのですか。たとえば河川行政Ⅰとか道路行政Ⅰとかありますが、このような専門的な研修の始まる前に30分位やっているということなのですか。あるいはその研修の中に埋め込まれているのですか、その辺おたずねしたい。</p> <p>○資料にある星印は自習時間ビデオとか簡単な方法で、丸印は講義として講師がやるということですか。</p> <p>○講師が何をお話するのかという共通のテキストのようなものはありますか。</p>	<p>○コースの研修の中で、講義形式で取り入れるコンプライアンスについては、概ね1時間、あるいは1時間30分というのが標準的な講義の時間になっています。専門的な研修であっても、取り込むことが可能なものについては、講師が教材を使った講義形式で説明をしています。時間が取れない場合に、自習時間である朝の30分の時間の中で、ケーススタディであったり、ビデオ等の活用で取り組んでいきたいとの考えです。</p> <p>○そうです。</p> <p>○水門談合問題の後に行われた、全国の地方整備局の職員を対象としたインストラクター用の研修で、コンプライアンスセンターの郷原先生が講義で使用したテキストを元にお話をしております。このテキストのなかに、最近の不祥事案を追加して、研修生のレベルにあった話をしてしています。</p>

<p>○基本的な研修受講の体制として、研修は一応必ず受けるというスタンスなのですか、あるいは業務を優先させて、時間が取れば受けるという、少し緩やかなものなのですか。</p> <p>たとえば、自分の業界の話をしなすと、研修は最低何十回取らなければならないという義務になっています。研修はどれに参加しようと自由ですが、ただし、年間何十回最低取りなさいと、項目によって義務化があります。倫理関係や監査の品質保守という事で品質管理の研修等については、最低何回受けるという、項目毎の受講義務があります。地方整備局の受講体制について基本的なところを教えてください。</p>	<p>○二通りあります。たとえば新任副所長研修といった、ある程度のレベルに上がってから受けるものは、義務に近いものになっています。それから、それ以外の、たとえば道路行政ⅠやⅡについては、道路行政に携わって何年目までの職員とか、ある程度幅をもって各事務所に募集し、推薦を受けて受講させることとしています。</p> <p>全体を義務化はしていません。</p>
<p>○個人ごとにどの研修を受けたという管理は、どのようにしているのですか。</p>	<p>○担当部局で一括管理しております。だれが、どれを、いつ受けたか、全部わかります。それを見ますと、去年あるものを受けて、今年も別なあるものを受けてと毎年つながっている人もいますし、3～4年受けていない、といった人がいることも確かめられます。</p>
<p>○そうすると、人によっては非常に受講数が足りないのではないかというのが出てくるとは思いますが、こういった対応を取っているのですか。</p>	<p>○それは職場ミーティング等でカバーすることになると思います。研修所での研修では賄いきれない者がいます。一方で、昨年も同じような内容を聞きました、というアンケートを書いている人がいるのも事実です。</p>
<p>○内部で、全体研修に関するアンケートを取っているのですか。</p>	<p>○研修ごとにアンケートと感想文をとっています。その中で出てきた意見をもとにして、事例を充実させたり、対象者によって求めているものが違いますので、新しくきた職員であれば大まかな業務内容であったり、副所長クラスであれば応用編というのが必要であったり、受講者に合わせて内容を変えています</p>
<p>○研修制度を導入した事に対する全般的な反応というのはいかがですか。</p>	<p>○全般的なまとめはしていませんが、個々の研修ごとの感想では、改めて事案を知ったとか、知っていたけれども整理ができたという肯定的な意見がかなり多くあります。</p>
<p>○好評であるという受けとらえ方ですか。</p> <p>○今の話にも関連しますが、何らかの事があったときに、外部に対する説明として、PDCAサイクルの中で、しっかりした組織運営の中でこの研修をやっている、特に点検、評価の中は、こういうシステムです、という言い方が出来ませんと、少なくとも外部評価とか世の中に対しては、システム的にしっかりとした中で運営されていますという事を説明しなければいけない時期ではないかと思われすが、そのような構築というのはいは考えていますか。</p>	<p>○それは自信を持って言えます。</p> <p>○体系的な構築までは想定していません。この委員会で議論していただき、それを公表するのひひとつの方法かとは思いますが、それから、研修ごとの、「ためになる」とか、「必要がない」などの意見をまとめ、それらを一覧性のあるものにする。それと毎年度の研修実施計画を定めています、今日皆様から頂くご意見を盛り込んだ全体の計画については、一定の手続きのうえで、外部の方の意見を取り入れたものと考えています</p>

<p>○非常に研修の数が多いですが、研修講師には、外部の方がどれ位いるのですか、どれ位の率ですか。</p> <p>○「コンプライアンス・メンタルヘルス」ということでやっていますが、この二つは全く性格の違うものではないのかと思います。私の仕事で考えますと、メンタルヘルスというのは、たぶんコンプライアンスとは異質な物で、同日で研修を行うにしても、項目を変えた方がいいのかなという感じがします。</p>	<p>○おそらく1割から2割。基本的に講師は内部です。</p> <p>○研修の中で、行政系は整備局の本局にいる職員が講師をやるのがほとんどです。あとは、たとえば接遇などは、外の専門の方をお招きしてやることもあります。基本的には内部です。</p> <p>○実は以前はそれぞれ別に開催していました。コンプライアンスとメンタルヘルスは、まったく別の物というのはおっしゃるとおりです。ただ、今職場で問題になっている、二つの最大テーマでもあります。</p> <p>新任管理者となる人、部下をもつ課長クラスに、まずは、どちらのテーマにも理解をもってもらおうということで、確かに異質なものですが、効率性を考慮して一緒にしたものです。</p>
---	---

意見・質問等	回答
<p>■報告事項について</p>	
<p>◎ファイル共有ソフトWinnyによる行政事務情報の流出について</p> <p>◎入札・契約に関する最近の動向について</p>	